

28日(土)・29日(日)にエコルマホール、メビウス∞えきまえ広場などで催される「ラ・フォル・ジュルネ(略称LFJ) TOKYO2018 プレフェス・ア・コマエ」について実行委員会委員長の恒松孝典さん(49)に話を聞いた。

「LFJは平成7年にフランスのナントで誕生したクラシック音楽祭で、それまでのコンサートと違い、一流の演奏を低料金かつ短時間で気軽に楽しめるため、大きな反響を呼び、世界各地に広がりました。日本では平成17年から東京国際フォーラムで開催され、毎年人気を集めています。狛江でも28年4月に東京国際フォーラムと連携しLFJのイベントが初めて催され、2日間で約13,000の方が来場しました。その時、私は狛江市観光協会の理事として実行委員会に参加し、緑の三角ひろば(現・メビウス∞えきまえ広場)を担当しました。会場には、小さな子を連れた家族やお年寄りなどが、生のすばらしい演奏や屋台村の飲食を楽しんでおり、すてきな時間が流れていると感じてうれしくなりました」

「今回は観光協会、狛江青年会議所、狛江市音楽連盟、狛江市商工会、音楽の街-狛江 エコルマ企画委員会、(一財)狛江市文化振興事業団の団体から選ばれた委員9人で実行委員会を構成し、私

狛江の春にふさわしい音楽の祭典になるようがんばります

が委員長を務めることになりました。また、アドバイザーとして(一財)狛江市文化振興事業団理事の榊原徹さんに参加していただき、プロの立場から多くの助言をいただいています。委員会は昨年11月から音楽部会と商業部会に分かれ、



LFJプレフェス・ア・コマエ実行委員会委員長 恒松孝典さん

コンサートの内容や飲食イベントについて検討してきました。現在はイベント全体を盛り上げるため、市内の商店にも参加していただけるキャンペーンなどの準備を行っています」

「エコルマホール公演以外の会場で演奏する出演者を募集したところ、音楽の街-狛江だけに、さまざまな年代の個人やグループにたくさん応募していただきました。私自身は商業部会の担当ですが、委員長としても、性格の違うふたつの部会の調整が大きな役割です」

「ことしのテーマは『モンド・ヌーボー(新しい世界へ)』で、テーマに沿って2日間で本格的なクラシックから邦楽、太鼓、狛江ゆかりのアマチュアバンドなど、さまざまなジャンルの30近くのプログラムを用意しています。また、新たに泉の森会館が会場になりました。エコルマホールの公演には、世界的に活躍するアーティストが出演し、オペラの Ariaなどの演奏もあります。狛江の春にふさわしい音楽の祭典になるようがんばりますので、前回を上回る入場者になるよう期待しています」

恒松孝典さんの横顔-狛江市猪方生まれ。狛江第六小学校、狛江第二中学校を経て日本大学鶴ヶ丘高等学校から同大農獣医学部(現・生物資源科学部)に進学。卒業後は会社に勤めた後、平成7年に父が経営する有限会社恒松測量設計事務所に入社、18年に代表取締役役に就任。狛江青年会議所(JC)で地域活動を経験、元・狛江第六小学校PTA会長。現在、狛江市観光協会理事。妻・子ども3人の5人家族。趣味は、犬とのアウトドアライフで、セラピー犬の2匹のゴールデンレトリバーと海や川などで遊ぶ。



◆ 65 ◆

露天風呂やサウナ、日曜の朝風呂が人気

狛江市立中学校給食センター南側にある富の湯(西野川4-5-14)は、半世紀以上にわたって地域の人に親しまれてきた銭湯。

創業者は富永桑吉さん(明治43年～昭和47年)。農業を営んでいた桑吉さんは、妻のシマさん(大正4年～平成19年)との間に生まれた5人の娘たちのために農業以外の仕事も始めようと考え、昭和37年に食料品を販売する富永商店を開業した。桑吉さんは当時、野菜作りや養鶏も手がけていたため、商売は主にシマさんと長女の順子さん(76)が担当した。次女の嫁いだ三鷹市の精肉店では銭湯など多角経営を行っていたのに触発され、人口増加が目立つ狛江にも銭湯が必要と考え、42年に富の湯

富の湯

を開業した。

当時は風呂のないアパートも多く、また第一次入居が始まった狛江団地(都営狛江アパート)は風呂おけや釜が入居者負担ですぐに買えない世帯もあり、団地住民の客も多かったという。風呂の釜たきには主に順子さんの夫の和昌さん(81)が受け持ち、四女の容子さん(67)ら家族が掃除や番台などを担当した。

容子さんは、48年に世田谷区代田生まれの会社員正敏さん(72)と結婚。将来事業をしたいと考えていた正敏さんは結婚を機に退職、和昌さんから仕事を教わった。この年にオイルショックが起き、銭湯も燃料の重油の確保が難しくなったが、重油と木材の両方が使える釜だったため、近隣の工務店から廃材の提供を受けて危機をしのいだという。この危機を乗り切ったのを機に、正敏さんと容子さん夫妻が本格的に銭湯経営することになった。

50年代後半になると人口は横ばいとなり、内風呂の普及で客足に陰りが見え始めた。その対策として正敏さんは63年に「家に風呂がある人も来たがる銭湯」をめざし、市内で最も早くサウナ風呂を男女浴室に設置したほか、ジェットバスの設置、番台からフロント形式への変更、湯上がり川にくつろげるロビーなど大幅なリニューアルを行った。さらに露天風呂も設けるなど積極的な経営が功を奏し、お客が増加した。また、日曜日に始めた朝風呂が人気を呼び、遠くから車で来る人もいる。高齢者が開店前から多く並ぶため、開店時間をくり上げた。

後継者の不足などで廃業する銭湯も多く、狛江でも最盛期の9軒から現在は4軒に減った。しかし、富の湯は正敏さんの次男の祥孝さん(35)が早くから家業を継ぎ、3人で仕事にあたっている。

正敏さんは組合の仕事にも熱心に取り組む、銭湯全体を盛り上げる努力を続けてきた。最近では銭湯のファンが増えており、正敏さんは「お客様のニーズに合わせて営業を心がけています。毎日来る人も多く、気持ち良かったと言われるとうれしいです」と話している。

富の湯 ☎03-3488-2272 営業時間=午後2時～午前0時、日曜は午前8時～正午も営業。月曜休み



(左から) 富永正敏さん、容子さん夫妻と祥孝さん夫妻

昭和42年にオープン/積極的なリニューアルで客足回復

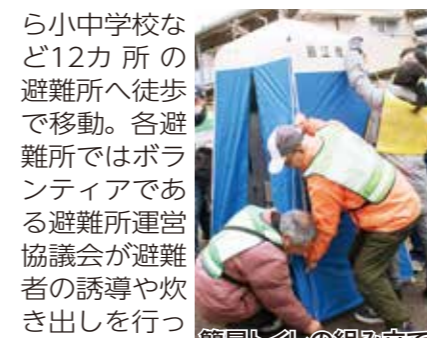
協会の会員たちは「狛江は坂道が少なく自転車が多いが、マナーの悪い人がめだつので改めてほしい」「交通事故は被害者も加害者もつらいので、お互いにマナーを守って安心安全なまちにしたい」と訴えていた。今後、交通安全講習会などで配布する予定。

問い合わせ ☎3430-1111 狛江市道路交通課。

1800人が総合防災訓練 障がい者も参加

狛江市総合防災訓練が2月25日(日)に市全域で約1,800人が参加して行われた。

午前9時に地震が発生したという想定で、各家庭か



簡易トイレの組み立て

ら小中学校など12カ所の避難所へ徒歩で移動。各避難所ではボランティアである避難所運営協議会が避難者の誘導や炊き出しを行ったり、簡易トイレの組み立てなど避難所の開設や運営訓練を行った。狛江第三中学校に避難した参加者は「最近狛江へ転居してきたので避難所を確かめるため初めて参加しました。ボランティアの熱心さに感心しました」と話していた。

同校では、体の不自由な

障がい者などを対象とした福祉避難所設置運営訓練も実施され、要支援者や付き添い、ボランティアなど約30人が参加。参加者は校舎1階の部屋で、市が派遣した手話通訳者や要約筆記者が状況の説明や要望などを聞き取る訓練を行った。その後、市の福祉避難所になっているあいびあセンターへの移動訓練も行い、車イスの人などがボランティアに付き添われ、約30分がかりで移動した。参加した障がい者やボランティアは「災害時に安全に移動できるよう、訓練を重ねることで課

題を解決し、不安を解消していきたい」と話していた。

ハンディや年齢を越えて 28日に「みんなで踊ろう」

ハンディや年齢を越えてみんなで楽しい時間を過ごそうと28日(土)午後2時～5時に西河原公民館で「みんなで踊ろう狛江実行委員会主催」が催される。

車イス利用者の提案にこたえた俳優や音楽家、舞踊家などが企画、昨年6月に初めて催され、好評だった。今回もダンスとステージショーを組み合わせた形式で開く。入場料500円。

問い合わせ ☎3489-2246 M.A.P.

非常食のアレンジ競う 狛江JCがコンテスト

狛江青年会議所(JC)が行った「非常食アレンジコンテスト」の入賞作4点が決まった。

同会では災害時に役立てるため、缶詰3種以内と最優秀賞に原由紀子さん(主婦)「ドライカレー風ひじきチャーハン」、優秀賞に大久保美琴さん(高校1年)「サバの混ぜこみおにぎり」、JC賞に米沢風人さん(フリーター)「イタリア風おかゆ」、審査員特別賞に荻谷しをりさん(小学2年)「缶とごはんでカ



非常食を作る応募者

ンタン?!ライスピザ!」が選ばれた。

料理は青年会議所の長島理理事長や狛江市社会福祉協議会の職員など5人の審査員が試食したが、「非常食とは思えないでさばえで、みんなおいしくて優劣がつけられない」とうれしい悲鳴をあげていた。

安丸も4コマ漫画に 安心安全交通ブック

悲惨な交通事故を減らそうと狛江市の道路交通事故特性に対応した「狛江市「身を守る」「見守る」安心安全交通ブック」(写真・仮)を発行した。

平成29年度行政提案型市民協働事業によって初めて作成したもので、調布交通安全協会狛江連合支部の会員が編集に協力した。

冊子はA5判32ページで、狛江市の安心安全キャラクターの安丸や守助を使っ

た4コマ漫画を使うなど、イラストを中心とし、年代を問わず親しみやすい体裁にした。また、子どものためにふりがなを入れた。

編集に当たっては28年に市内で起きた交通事故のデータを基に、自転車と歩行者各2例、運転者と高齢者各1例を取り上げ読者がそれぞれの立場でシミュレーションできるようにしたという。

編集に協力した交通安全

